

vol.
58
2023
winter



Osaka Kyoiku
University
Public Information
Magazine

大阪教育大学広報誌

Ten You

天遊

Students Now!

卒業生CATCH!

附属学校園ウォッチ

ゼミ室こぼれ話

今号の表紙学生

TOPICS

特集

教育学部の

副専攻 プログラム



選んで学べる！ 教育学部の 副専攻 プログラム



大阪教育大学では主専攻プログラムの学修と並行して、専門分野とは異なる分野を学ぶ機会が設けられていることを知っていますか？選べる分野は、「日本語教育」「外国にルーツのある子どもの教育」「STEAM教育を中心とした教科横断型教育」「地域との連携・協働によるダイバーシティと人権教育」「心理学のエビデンスを活用できる教員の養成」の5種類。申請の流れや履修方法、それぞれのプログラムの到達目標についてご紹介します！

プログラムの履修開始から終了まで

まずは、各プログラムの概要・修了要件を確認して申請※1！
申請できるプログラムは1つだけなので要注意。



4月※2 → 各学期中 → 卒業時

Live Campusを通じて学期ごとに「プログラム構成科目」の履修登録を行い、在学している課程・学科を卒業するまでに、所定の単位修得を行います。

所属する専攻・コース等の卒業要件（見込み含む）を満たし、かつ、所定の単位をすべて修得すると、学修証明書等が交付されます！

※1 1回生と2回生の前期での申請が多いですが、プログラムの中には、上回生を推奨するものもあります。
※2 プログラム申請期間は年によって異なるので、在学生はLive Campusやmoodleを確認しましょう。

副専攻プログラムの特徴

副専攻プログラムは、時代の変化に応じた多様な教育課題に対応し、専門とは異なる分野の主専攻プログラムの基礎、または本学で開設する主専攻プログラムでは扱わない専門分野を学修する機会を提供することを目的として体系的に構成されています。

履修している主専攻プログラムが基礎となっている副専攻プログラムへは申請することができません。主専攻プログラムの履修の中で、副専攻プログラムで定める修了要件を満たした場合、修了証が授与されます。

詳細※3は
パンフレットを
確認！



※3 本特集の情報は、主に令和5年度以降に入学する学生を対象としています。対象授業など、入学年度によって異なる情報もあるので、気になる方はパンフレットを確認しましょう。

日本語教育プログラム

定員
20名

- ◆地域や教育現場のグローバル化に対応する日本語教育支援人材の育成
- ◆グローバルに活躍する日本語教員の育成

到達目標

- 日本語・日本語教育についての基礎的な知識を身につける
- 実践的な教育方法やスキルを身につける
- 言語文化や芸術・社会文化に対する幅広い理解力を身につける
- 異文化間コミュニケーション力を身につける
- 他者と主体的に協働する力を身につける

対象授業

- 必修授業科目（各2単位×9科目）日本語教育理解／実践科目
日本語教育概論A、日本語教育概論B、日本語教材論、日本語学研究ⅠA、日本語学研究ⅠB、日本語の文法、日本語教育演習、異文化間教育、日本語教育プロジェクト演習
- 選択必修授業科目（各2単位×2科目以上）国語科教育理解科目
①日本文学研究ⅠA／日本文学研究ⅠB／中国文学入門A／中国文学入門B から1科目以上
②読むための視点／ドイツ文学を読む／比較文学論／芸術理論／民族と音楽／日本事情／ヨーロッパフランスの窓から から1科目以上 多文化理解基礎科目
- 選択必修授業科目（2単位×2科目）多文化理解発展科目
教育協働学科グローバル教育専攻多文化リテラシーコースの専門科目から4単位以上

対象学生

- 初等教育教員養成課程（幼児教育専攻、小学校教育専攻（昼間コース））の学生
- 学校教育教員養成課程の学生
- 養護教諭養成課程の学生
- 教育協働学科の学生※

※教育協働学科グローバル教育専攻多文化リテラシーコース所属学生は、主専攻プログラムの一環として履修することとなります。



プログラム担当教員からの MESSAGE

これからの日本語教師には、多文化共生社会の実現と持続を担う人材として、日本語・日本語教育の専門的知識はもちろん、異文化理解に必要な幅広い教養が求められています。この点を踏まえた多文化理解基礎・発展科目、さらには本学の強みを活かす国語科教育理解科目を組み込んだ独自のプログラムになっています。

グローバル教育部門
石橋 紀俊 教授



外国にルーツのある 子どもの教育プログラム

定員
20名

希望者多数の
場合は選考

- ◆日本語指導が必要な児童生徒の指導を担える教員の体系的な育成
- ◆大学における養成教育と現職教員教育からなる体系的な教員教育モデルプログラムの開発・普及

到達目標

- 日本語指導が必要な児童生徒の生活や成育の背景を理解する
 - 直面する教育課題についての基礎的な知識を身につける
 - 児童生徒の学習指導や日本語指導についての実践的な知識やスキルを身につける
- 教員として必要とされる基礎的な力量に加えて、異なる言語文化や学校文化に対する幅広い理解力と寛容性、異文化間コミュニケーション力、他者と主体的に協働し問題解決する力を身につける

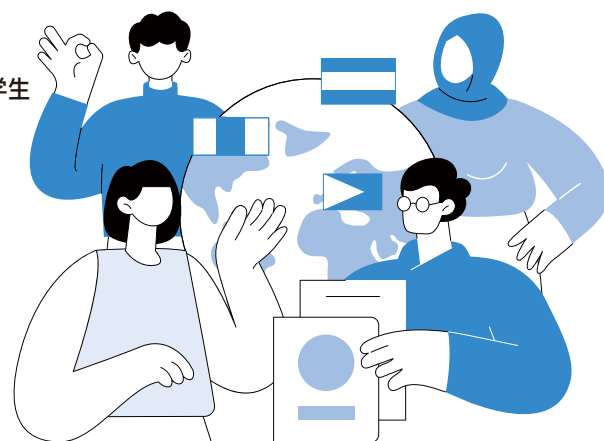
対象授業

修了要件
18単位
+
学外活動

- 必修授業科目(各2単位×8科目)
外国人児童生徒教育、世界の教授法・世界の教科書、子どもの多様性と教育、ことばの獲得と学習支援、日本語教育概論 A、日本語教育概論 B、日本語教材論、異文化間教育
- 必修授業科目(30時間相当の学外活動*)
多文化共生学校体験研修
*3箇所以上にわたる日本語指導が必要な児童・生徒を受け入れている学校等における研修
- 選択必修授業科目(各2単位×1科目以上)
教職インターンシップⅠ／教職インターンシップⅡ／幼児教育インターンシップ／
学校インターンシップ体験／教育コラボレーション演習 から1科目以上

対象学生

- 初等教育教員養成課程
(幼児教育専攻、小学校教育専攻(昼間コース))の学生
- 学校教育教員養成課程の学生
- 養護教諭養成課程の学生
- 教育協働学科の学生



学校教育部門
高橋 登 教授

プログラム担当教員からの MESSAGE

外国にルーツのある子どもの数は増え続けています。本プログラムは、そうした子どもたちの適切な支援ができる教員の育成をめざします。めざすのは、単なる日本語獲得の支援ではなく、子どもたちが自らの言語や文化に誇りをもちつつ、多様性を持った日本社会の一員として生きて行くことを支援できる教員の育成です。

STEAM[※]教育を中心とした 教科横断型教育プログラム

定員
10名

希望者多数の
場合は選考

- ◆現代社会が抱える幅広い課題について他者と協働しながら探究し、解決する手法を身につけ、教職の専門性につなげることができる人材の育成

※Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics等の各教科での学習を実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育

到達目標

- 教科等横断型学習や課題探究型学習の基礎・基本について理解する
- これらの学習を実現するための社会に開かれた教育課程や、教科等横断型学習がめざす資質・能力について理解する
- 本プログラムを編成する授業の担当教員や受講学生との連携・協働を通して、現代的な諸課題を探究する力を身につける
- その経験を通して、探究型学習の指導の基礎・基本について理解する

対象授業

修了要件
16単位

- 必修授業科目(各2単位×2科目)
課題探究型STEAM教育、探究型学習の実践と研究
- 選択必修授業科目(各2単位×6科目以上)
読むための視点／コンサートへの誘い／人間と道徳／国際関係入門／共生社会論／キャリアデザイン／消費者教育論／日本国憲法／現代社会学の方法と実践／環境教育論／生命と共生／ミクロの生物学入門／健康科学への招待／生活環境をさぐる／学校安全 から6科目以上

対象学生

- 初等教育教員養成課程
(小学校教育専攻昼間コース)の学生
- 学校教育教員養成課程の学生
- 養護教諭養成課程の学生
- 教育協働学科の学生のうち、中学校・高等学校
または養護教諭の教員免許状取得予定者



プログラム担当教員からの MESSAGE

変動し不確実で曖昧な時代に、自ら問題を発見し解決する力の育成が求められます。デザイン思考のプロセスを通して問題を発見し、その問題を解決するために、教科横断的な視点で知識や技術を総合的に駆使する実践的な学習モデルの一つがSTEAM教育です。複数の専門領域の異なる教員が協働し、学習をサポートします。

美術・書道教育部門
渡邊 美香 准教授

地域との連携・協働による ダイバーシティと人権教育プログラム

定員
10名

希望者多数の
場合は選考

◆地域との連携・協働による多様性の尊重と人権教育の推進を担う教員を育成

到達目標

- ダイバーシティと人権に関する共通概念と個別の人権課題に関する理解
- 人権教育の実践的理解やスキルの習得
- 人権課題に関する実践的フィールドワークを通して、多様化・困難化した課題に対する幅広い理解と多様な地域人材・専門職との連携・協働について学び、多様性の尊重と人権教育の推進を担う力量を身につける

対象授業

修了要件
16単位
+
学外活動

- 必修授業科目(各2単位×2科目)
ダイバーシティと人権、地域連携・人権フィールド入門
- 必修授業科目(30時間相当の学内活動*)
対話的・協働的学習によるリフレクション
*学内でグループごとに人権フィールド入門や教育実習等をふりかえり、適宜教員が指導助言します
- 選択必修授業科目(各2単位×3科目以上)
人権教育論/部落問題概論/ジェンダーとセクシュアリティ/多文化共生の社会をめざして/「障害」者と人権/共生社会論/障がい者支援入門 から3科目以上
- 選択必修授業科目(各授業[]内の単位数を合計して6単位以上)*
教職インターンシップⅠ[2]/教職インターンシップⅡ[2]/学校インターンシップ体験[2]/教育コラボレーション演習[2]/教育実習(基本)[5]
教育実習(併修)[3]
*教育実習(基本)は、教育協働学科教育実習(中・高)(養護)を含みます
*教育実習と各インターンシップは本プログラムの履修対象学校において行います

対象学生

- 初等教育教員養成課程
(小学校教育専攻(昼間コース))の学生
- 学校教育教員養成課程の学生
- 養護教諭養成課程の学生
- 教育協働学科の学生のうち、中学校・高等学校
または養護教諭の教員免許状取得予定者



地域連携・教育推進センター
池上 英明 特任教授

プログラム担当教員からの MESSAGE

このプログラムでは、履修対象校でのインターンシップと教育実習を通して、多様性と人権教育について学ぶことを大切にしています。学校や地域をフィールドにして、「多様な生活背景の子どもたちに関わりたい」「子どもたちの課題に学校や地域がどんな取り組みをしているのか学びたい」と思ったら、ぜひご連絡ください。

心理学のエビデンスを活用できる 教員の養成プログラム

定員
8名

希望者多数の
場合は選考

◆心理学の観点から児童・生徒の理解を深め、学校教育現場の諸問題に
対処できる力を身につけた人材の育成

到達目標

- 心理学におけるエビデンス・ベースドのアプローチに関する基本を理解する
- 子どもの発達・学習・カウンセリング・教育相談などに関して深く理解する
- 心理学的な調査法・介入法・分析法に関する基本を理解する
- 学校教育現場の諸問題に対処できる力を身につける

対象授業

修了要件
16単位

- 必修授業科目(各2単位×3科目)
発達と学習の心理学、教育相談の理論と方法、心理学問題研究
- 選択必修授業科目(各2単位×1科目以上)
発達心理学/学習心理学/教育社会心理学/教育臨床心理学/職業指導/心理学特殊講義Ⅰ/
心理学特殊講義Ⅱ から1科目以上
- 選択必修授業科目(各授業[]内の単位数を合計して2単位以上)
心理学文献講読[2]/心理学基礎実験[2]/心理学統計法演習[2]/心理学研究法演習Ⅰ[1]
心理学研究法演習Ⅱ[1]/心理学特殊実験演習Ⅰa[1]/心理学特殊実験演習Ⅰb[1]
心理学特殊実験演習Ⅰc[1]/心理学特殊実験演習Ⅰd[1]/心理学特殊実験演習Ⅱa[1]
心理学特殊実験演習Ⅱb[1]/心理学特殊実験演習Ⅱc[1]/心理学特殊実験演習Ⅱd[1]

対象学生

- 初等教育教員養成課程
(幼児教育専攻、小学校教育専攻(昼間コース))の学生
- 学校教育教員養成課程
(小中教育専攻学校教育コース所属学生を除く)の学生



プログラム担当教員からの MESSAGE

教員をはじめとした学校教育にかかわる仕事では、心理学の研究からわかったことを子どもたちの理解や指導に生かすことも大切ですが、教員免許を取得するための必修科目では、そのごく一部にしかふれることができません。この副専攻プログラムでは、さまざまな領域の心理学の知識を深めながら、そこで重要となる、エビデンスをもとにした判断についても理解していきます。

学校教育部門
小松 孝至 准教授



やりたいことを
全てやりきって
夢を叶える!

積極的な
コミュニケーションと
新しいことへの挑戦

Students Now!

スチューデント ナウ

撮影の様子は、
ハイライトを
チェック!



Instagram
osaka
kyoikuuniv

SHOKO
OUCHI

初等教育教員養成課程
小学校専攻 夜間コース 5回生

大内 祥鼓さん

(愛媛県立松山南高等学校 普通科卒)

「私、何に対しても自信をもって取り組みちゃうんです」。2023年春から大阪市の小学校教員として勤める、明朗快活な大内さんの印象的な言葉。どうしてそんな風に自信をもてるのかと質問すると、「ありがたいことに周りの方にめぐまれ、家でも学校でもたくさん褒めて育ててもらったからだと思います。そんな環境を学級経営という形で作って、子どもたちにも伝えていきたいんです」と目を輝かせて話し始めます。

大内さんが教員をめざしたのは、小学校のときの担当がきっかけ。同じく愛媛県出身で本学に進学して教員になったその担任は、低学年時に学校でも甘えん坊だったという大内さんを優しく包みこんでくれたそう。「小学校教員になりたいと思ったのは、その担任が授業も行事も全部楽しく指導してくれる先生で、自分の学校生活で一番いい思い出だったから。あと、これは入学後に徐々に感じたことですが、驚異的に成長する姿を長い目で見られるのは小学校ならではの感覚。低学年では『何を言ってるか分からへん』から始まって、中学年では対話、高学年では大人同士の対等に会話ができるようになるのってすごく面白い!」

まっすぐに小学校教員をめざし、中学・高校のときの職業体験でも小学校を訪問した大内さんは、「子どもの特性や保護者の教育に対する意識の傾向は、地域性や学校、塾に行っているかどうかでも違うし、十人十色の子ど

もと接するにはいろんな環境に身を置きたい」と進学塾や特別支援サポーターなど子どもに関わる多様なアルバイトに挑戦。ダンスや音楽、手話など多くのサークルにも所属しています。本学の夜間コースに進学した理由も、『日中に教育現場で経験を積んで夜に専門的な授業を受ける。日中に働いたお金で休日は趣味を楽しむ』というオンオフのある生活を魅力に感じたからだと話します。

趣味のミュージカル鑑賞においても『劇団四季をよく観に行くんですけど、『身体一つでこんなに表現できるんだ』と、元気をもらいながら日々頑張っています(笑)』と、どんなことから学びやパワーをもらっている様子。小さい頃から続けているダンスに、ゼミの研究テーマとしても取り組む大内さんの、小学校体育における表現運動、特にダンスに対する教員の心理的抵抗感の緩和をめざすことを

目標とした、実践授業での研究成果も想像以上だったとか。

「やりたいと思ってることって、きっと全部叶うと思います。だから、自分のやりたいことに全部挑戦して、やりたい気持ちを持ち続けて欲しいです。私も教師になりたいと思い続けて合格することができたし、海外に行きたいと思い続けていたら、卒業旅行でヨーロッパに行くことができました。大体のことは叶います!」と力強く語ります。

そんなポジティブな心持ちとパワフルな実行力をもつ大内さんの「子どもたちが、まずは自分の良いところを見つけて自分の可能性をひろげ、自己肯定感を高められるような関わり方をしたい。そこで見つけた得意なことを将来の夢にも繋げてあげたい」という思いは、きっと子どもたちに伝わっていくことでしょう。



SHIKO
CHI

学校教育教員養成課程
特別支援教育専攻 4回生

遅 之恒さん

(大連市第二十五中学卒)

日本に来て6年目、日本語学校で2年学んだ後に本学へ入学した中国・大連市出身の遅さん。撮影を始めると「撮影されることはあまりないので…」とはにかみます。緊張した様子でカメラへと視線を向ける遅さんですが、留学のきっかけを質問すると明るい表情に変わり、「母の勤め先が中国にもオフィスを置く日本企業です。その納涼会に参加したときに日本のマナーや礼儀に感銘を受けました。そんな国でいろんな人とコミュニケーションを取ることで『自分が想像できなかったことや思考力を身に付けたい』『自立して成長したい』と思ったんです」と話し始めます。

なかでも本学の特別支援教育専攻を選んだ理由は、中国のある映画がきっかけ。末期がんになった父親が、残された時間で知的障が

いをもつ息子の社会参加への道を支える姿を描いた作品だったといいます。「障がい児本人やその親が抱える悩みを知り、衝撃を受けました。もともと日本のドラマやアニメが好きでそれも留学したかった理由の一つですが、その映画では日本の特別支援教育のことも取り上げられていて、国民健康保険などの社会制度も進んでいる日本でこの分野を学ぶことを決意しました」

そこから、ほぼすべての障がい種について学べること、教員になる道もあることや学習環境が充実していることから本学へ進学を決めたという遅さん。大学生活のなかでも大変だったのは教育実習だったようで、周りの友人や先生からの励ましや応援がなければ乗り越えられなかったかも、と話しながらも「大学

で学ぶこと以外にも、臨機応変な対応の重要性を痛感しました。学校現場に関わらず社会に出たら大切な力だと思うので、いろんなことに挑戦しながら身に付けていきたいです」と前向きな姿勢。

学業以外でも留学の醍醐味として、「文化や伝統を肌で感じられることが魅力です。友人との会話や、接客中心のさまざまなアルバイトに挑戦することでコミュニケーションを取ることができて、新しい価値観の発見と成長の毎日です」と胸を弾ませた様子で話します。「コロナ禍で外出できない時期もありましたが、嵐山(京都市)での紅葉狩り、淡路島(兵庫県)に海を見に行くなど、関西周遊を楽しんでいます。文化の違いも興味深くて、日常的なことだと、日本ではお茶パックの使用頻度が高いけれど中国では茶葉をそのままお湯に溶かして飲むことが多い、とか、京都で抹茶アイスを食べたときに、これは中国ではあまり売られていないな、とか」と目を輝かせていました。

紆余曲折あり、学校現場ではなく、中国語と日本語を話せる今のスキルも生かして働ける貿易関係の仕事に就くことを決めた遅さん。「日本語でのコミュニケーションスキルをもっと上げたいし、これからは、英語も勉強して話せるようになりたいと思っています。仕事で港に行くこともあるのでいざというときに、今はスイミングスクールに通って泳ぐ練習をしています」

チャレンジ精神あふれる遅さんが、新しいことにたくさん挑戦していく姿が目に見えそうです。



卒業生 CATCH!

学ぶ心と
感謝の気持ちを
いつも胸に



大阪四季劇場で上演中*の劇団四季
ミュージカル『オペラ座の怪人』。牧さん
はクリスティーヌ・ダー役の1人として
出演している(手前・右)。

* 2023年8月27日千秋楽 撮影:野田正明



劇団四季 俳優
まき み こ
牧 貴美子
教養学科 芸術専攻
音楽コース 2017年卒

ずっと歌うことが好きだった

幼稚園の頃から人前で歌うのが好きだったという牧さん。中学生のときに合唱、高校生のときはその延長で声楽を始めたそうです。当時から舞台が好きでよく観劇していたのだとか。「ピアノやバイオリンなどの音楽は親の影響で始める子が多いそうですが、私は自発的に『歌いたい!いろいろな挑戦してみたい!』というタイプでした」。

劇団四季をめざした理由

「歌やミュージカルが好きで、進路を考えたときの私にとっての選択肢は一つで、劇団四季は『憧れ』そのものでした。大学4年生のときに受けた研究生のオーディションには不合格となるも、「もう1年、これで最後だから頑張らせてほしい」とご両親を説得して私立の音楽大学の大学院で声楽を学んだ後に見事合格。「研究生として1年間レッスンを重ね、劇団員となり今舞台に立てていること、本当にありがたいです」。

日々課題と向き合う

「毎公演で達成感を感じる余裕はありません」と舞台のキラキラしたイメージからは意外な言葉。「『あの場面はもっとこうすればよかった』と後悔しない日はないし、『今日は完璧にできた』

と思う日が訪れたらそこで成長が止まってしまう気がするんです。プロだからこそ客観的な気持ちでは取り組みません」と真剣な表情で続けます。「でも、観に来てくださった方から拍手やメッセージをもらうときは本当に嬉しくてやりがいを感じる瞬間で、『むしろ私こそありがとうございます』という気持ちでいっぱいです」と顔をほころばせていました。

大学で得たもの

一番は人との出会いかもしれない、と微笑む牧さん。「大教大で出会った人に共通する特徴として『人柄の良さ』というのがあって、自分の意志をもって前に進める人や、人を敬う心を常に持ち続けている人ばかり」。また、ピアノやフルート、チェロなど、自身の専攻である声楽以外の分野を専攻する同級生と先生に囲まれて学んだことが、視野を広げることにもつながったといいます。「卒業後も、神代修先生にお声がけいただいて大学の芸術表現講座(音楽)主催のオペラ公演に出演したり、同級生が出演するリサイタルで心洗われる演奏を聴いたり、長く続いているこの関係がとても大切です」。

いま意識していること・いつか挑戦したいこと

「松下電器産業創業者である松下幸之助さんの『学ぶ心さえあれば、万物すべてこれ我が師である。』という言葉すごく好きなんです」と牧さん。「劇団員になって間もない今は自分なりの型もないですし、演出の方々や先輩からのアドバイスだけでなく、どんな些細なことからも学ぶ心を忘れずに精一杯取り組みたいです。そして、周囲の方のアドバイスを柔軟に吸収して、自分なりの型をつくっていきたい。今は目の前のことに誠実に取り組んでいて、いつかは自分と同じような夢をもって頑張っている子たちに、自分の経験を生かして指導する形で力になれば嬉しいです」。



大学主催のオペラ『フィガロの結婚』で
バルバリーナ役を演じる牧さん(左)

大阪教育大学附属学校園 WATCH

附属池田中学校の生徒が社会の 課題解決に取り組んだ成果を発表

附属池田中学校の3年生が、社会の課題を発見・調査し、その課題を解決するために行動する取組「コミュニティプロジェクト(CP)」を行い、その成果を11月5日(土)に開催した文化祭で発表しました。

これは、総合的な学習の時間の一環として、貧困やジェンダー、食糧問題など社会の課題解決を活動テーマに掲げ、生徒自身が企業や専門家などに直接連絡を取り、取り組んだものです。発表は、在校生と3年生保護者を対象に、グループごとにプレゼンテーションと質疑応答を行いました。

活動テーマ「子ども食堂への支援～子どもの笑顔を増やすために～」の発表では、3年生が「ボランティア活動はいつでも始められる。自分の好きなことや得意なことを生かしながら初めの1歩を踏み出してみることが大切だ。」とまとめた後、1、2年生が「コロナ禍では子ども食堂での活動内容に制限があったのか。イベント内容に変更があったか」と質問するなど、それぞれの学びを共有しあいました。



なお、同校では、41グループの取り組みを今年度のボランティア・スピリッツ・アワード(*)に応募し、そのうち28グループがコミュニティ賞を受賞しました。

同校の辻本堅二副校長は、「ボランティア・スピリッツ・アワードのコミュニティ賞を受賞したことで、本校のCPの取組が一定の評価を得ることができました。プレゼンテーションでは、取り組み内容、スライド、発表の様子など、どれをとってもさすが3年生という出来でした。」と述べました。

*ボランティア・スピリット・アワードは、米国ブルデンシャル・ファイナンシャルが1995年に開始した国際的な青少年のボランティア支援プログラムで、日本では1997年にスタート。「未来を描くチカラ」をキャッチフレーズとして、「誰かのために何かを変える」ことをめざし、自ら行動を起こしている中学生・高校生を応援するもの。

ゼミ室こぼれ話



高田 幸太郎さん | 教育協働学科 理数情報専攻
自然科学コース 4回生(写真:後列中央)

堀真子准教授が担当する固体地球科学ゼミでは、現在3回生を含めて9名のゼミ生が活動しています。ゼミ生の研究テーマは、地層の年代測定や古環境の復元、鉄の酸化についてなど人それぞれです。一貫しているのは「化学よりの地学」であるということだけ。

ゼミは、個人での活動がほとんどで、自分の実験とその結果の発表練習を繰り返します。全員で集まるのは月に4～5回で、その際にそれぞれが研究の途中経過発表、堀先生や他のゼミ生からアドバイスをもらって改善していくというのが基本のスタイル。

全員での活動でいうと、ゼミに入った時にゼミ全体で行く二上山(大阪府と奈良県の県境)でのフィールドワークでは、山の地層や鉱石を見ながら「露頭線」を作成して岩石を観察しました。小さい頃から空手を続けていて体力には少し自信があったのですが、堀先生がすいすいと道なき道を登って行くのに付いて行くのが大変だったなあ(笑)

堀先生からは途中経過発表のときにはシビアに指摘をされることもあります。そのおかげで研究や社会で必要とされる力がつきます。実験などでつまづいたときには丁寧にサポートをしてくださりますし、発表後はゼミ生同士でも意見交換したり、協力したりできるのがこのゼミの特徴です。

今回の表紙に登場してもらったのはバドミントン部の学生たち。
部活の活動内容やおすすめポイントを聞いてみました。



学校教育教員養成課程
小中教育専攻
⑤ 学校教育コース 3回生
稲葉 敬太さん

経験年数、学年に関係なく高め合い、切磋琢磨できる部活です。時には楽しく、時には厳しく、密度の高い時間を過ごせる環境を全員で作っています!

学校教育教員養成課程
小中教育専攻
④ 保健体育コース 3回生
赤穂 香菜子さん

バド部は、男女関係なくみんな仲がいい部活です!インスタやツイッターもしているのぜひ覗いてみてください!

教育協働学科
理数情報専攻
⑥ 自然科学コース 2回生
三澤 篤史さん

初心者から上級者まで合同で練習し、学年関係なくアドバイスし合いながら、全員が向上心を持ち練習に励むとても熱い部活です!!

この他にも最新のTOPICSは
こちらからご覧ください



01

神霜祭を3年ぶりに リアル開催



03

「教師冥利に尽きるエッセイ」 を活用した授業



02

炊飯器の仕組みから プログラミング的思考を学ぶ 特別授業



04

キャンパスガイド 「大教大をまるごと体験しよう!」



修学支援事業基金への ご協力について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による経済的に困窮する学生の存在は深刻です。本学では早期に、学生が経済的な理由により修学を断念することなく、安心して学業に専念できるよう、大阪教育大学修学支援事業基金を活用し、「緊急学生支援金」給付を実施しましたが、今後も新たな対象学生の増加や、継続支援とともに新たな支援の必要も予想されます。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

一口
1000円

クレジットカード等によるインターネットでの
お手続きとなります

●基金の詳細についてはこちらから▶

大学ウェブページ 基金ページ

[https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/
other/foundation/forstudent2.html](https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/other/foundation/forstudent2.html)

●ご協力いただける場合は

上記 ページのこちらのボタンから▶

(寄附)基金寄附支払いシステムF-REGI

※所得税等の控除の対象です。

▶ 修学支援事業基金お申込み▶



アンケートに答えて 大教大オリジナルグッズをGET!



大教大ボールペン



大教大マフラータオル

今後のよりよい誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケート(QRコードを読み取ってご回答ください)にご協力いただいた方の中から、抽選で3名様に**大教大ボールペン&マフラータオルを一色ずつ(色は選べません)**進呈いたします。プレゼントをご希望の方は、フォームにお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。

プレゼント応募締切

2023年 3月31日(金)必着

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
※重複での応募は無効とさせていただきます。



アンケートは
こちらから

「天遊」とは

「天遊」とは荘子の言葉で、人間の心の中に自然に備わっている余裕を表しています。キャンパス統合移転の記念碑に銘文として刻まれており、揮毫は故水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。「天遊」の読みからとった「TenYou」は、「十人十色、その中のあなた」というメッセージを込めています。

